

米国の原油増産プロジェクトにおける生産開始について

各位

JX石油開発株式会社

当社(社長:三宅俊作)は、米国テキサス州において推進する原油増産プロジェクトにおいて、CO₂を用いたEOR(Enhanced Oil Recovery:石油増進回収)による原油の生産を開始しましたので、お知らせします。

本プロジェクトは、当社が米国の大手電力会社NRG Energy, Inc.(以下「NRG社」という。)との合弁により進めてきたもので、テキサス州のNRG社・W.A.パリッシュ石炭火力発電所(注1)の燃烧排ガスから回収したCO₂を、同州内のウェスト・ランチ油田(注2)に圧入・貯留することにより、老朽化した同油田からの飛躍的な増産と、大気中へのCO₂の放出量削減を同時に実現するという先進的なものです。

本プロジェクトに使用する世界最大規模のCO₂回収プラント(注3)は、2016年12月末に運転を開始しており、今後同油田の生産量をEOR実施前の日量300バレルから、日量12,000バレル(プロジェクト期間平均での見込み)に増加させる計画です。また、本プロジェクトにより、大気中に放出されるCO₂を年間約160万トン削減させることが可能となります。

なお、この生産開始を記念して、4月13日に現地において、当社社長の三宅俊作ほか本プロジェクトの関係者によるセレモニーを行っております。

当社はCO₂-EORを重点技術の一つと位置付けて取り組んでおりますが、今後も新しい発想のもとで、地球環境と調和した事業展開を図ってまいります。

以上

注1 テキサス州ヒューストン市南西部に所在する米国最大規模の火力発電所です。

注2 W.A.パリッシュ石炭火力発電所の南西約130kmに所在する陸上油田で、当社は、NRG社との合弁会社を通じて同油田の権益25%を保有しています。なお、発電所から油田までは新設したパイプラインでCO₂を輸送しています。

注3 CO₂回収能力は日量4,776トンで、燃烧排ガスからCO₂を回収するプラントとしては世界最大規模となります。



スピーチの様子(三宅 当社社長)



セレモニーの様子

添付資料

1. セレモニーの概要

(1)場所 米国テキサス州ヒューストン市南西部 W.A.パリッシュ火力発電所内

(2)開催日 4月13日(木)

(3)主要出席者

【米国側】

米国エネルギー省

リック・ペリー 長官

テキサス州政府

グレッグ・アボット 知事

NRG Energy, Inc.

モーリシオ・グティエレス 社長兼 CEO

Hilcorp Energy Company

ジェフリー・ヒルデブランド 会長兼 CEO

【日本側】

在ヒューストン日本国総領事館

天野 哲郎

総領事

JX 石油開発株式会社

三宅 俊作

代表取締役社長 社長執行役員

株式会社国際協力銀行

天川 和彦

執行役員資源ファイナンス部門長

株式会社日本貿易保険

寺村 英信

ニューヨーク事務所長

株式会社みずほ銀行

中村 康佐

副頭取執行役員

三菱重工業株式会社

岡添 清

常務執行役員、米国三菱重工業社長

(4) セレモニーの様子



写真:スピーチの様子(三宅 当社社長)



写真：セレモニーの様子

(左から) 天野 在ヒューストン日本国総領事、ジェフリー・ヒルデブランド Hilcorp 会長兼 CEO、グレッグ・アボット テキサス州知事、リック・ペリー 米国エネルギー省長官、モーリシオ・グティエレス NRG 社長兼 CEO、三宅 当社社長、ウェイン・クリスチャン テキサス鉄道委員会コミッショナー、ピート・オルソン米国下院議員